

函館山の麓、西部地区がらまちづくりと一緒に！

はこまち通信 クーポラ

2021.4

vol. **56**

新たな視点でまちづくりに取り組む

Mission4 **情報発信** ※詳細は次ページ



函館災害情報 松居さんをゲストに対談しました



クーポラ編集長 谷口



<ゲスト>
函館災害情報 松居 孝幸さん



センター長代理 大矢



はこだて暮らし



Contents

■ 特集 **情報発信** ...P2

■ 一緒に応援しませんか？ 市民活動団体のご紹介
『レインボーはこだてプロジェクト』
『スマイルマーケット』（活動報告） ...P5

■ クーポラ便り／配布先・問い合わせ先 ...P6

■ INFO & TOPICS ...P7

■ センター長 丸藤の『今伝えたいこと』 ...P8



●まちづくりセンターで行われている講座案内や市民活動団体などの詳細は、ブログやホームページで公開中です。
●まちづくり、市民活動、各種助成金、移住・定住に関する問い合わせなど、お気軽にご相談ください。

発行／函館市地域交流まちづくりセンター

<http://hakomachi.com>



Mission4 情報発信

地域の課題を解決するため、まちづくりセンター(以下まちセン)は2007年のオープン以来、5つのミッションを掲げて活動してきました。今号は『情報発信』について取り上げます。

まちセンは市民活動団体の活動拠点、地域のコミュニティスペースとして、これまで**情報発信したい方や団体の**イベントポスターをセンター内に掲示したり、チラシを配架して**情報を発信したい方と情報がほしい方をつなぐ場**としての役割を担ってきました。

2020年はイベント数も来館者数も減少。館内の掲示物や配布物だけでは発信力が弱いことからインターネットによる**情報発信**を強化してきました。ブログは毎日更新を継続中。Twitter(ツイッター)やFacebook(フェイスブック)の運用について見直しを図ったほか、2021年1月には函館への移住を検討している方に向けてInstagram(インスタグラム)を開設しました。

対談ゲストに、Twitterで60,000人もフォロワー数を持つ『函館災害情報』代表 松居 孝幸さんをお迎えしてお話を伺いました。フォロワー60,000人とは、例えるなら函館市民の約4人に1人がフォローしているという数字になります。広報誌クーポラ初の“オンラインによる対談”となりました。(2021年1月28日)



—今回は『ブログやSNSを使った情報発信』について意見交換しました。前半は地域の災害情報を発信する松居さんの活動について。後半はまちセンのこれからの情報発信についてアドバイスをもらいました。



—松居さんがこの活動をはじめたきっかけをお聞かせください。(まちセン)



■松居さん

学生の頃、テレビのニュースで水害(洪水)の報道を観ました。「もし自分の地域で災害が発生したら、どうになってしまうのか…」と考え、専門学校を卒業後の2002年7月、『函館災害情報』のHPを立ちあげました。当時はメールマガジンを配信していましたが、2013年からはTwitterを利用しています。

災害による被災者を減らすには、地域のみなさんに、災害への『正しい理解』を深めてもらうことが何より大事だと思います。市民ひとりひとりの『防災意識』が高ま



れば、減災につながるのではないかと、思いながら活動しています。

■まちセン

防災、減災への思いから、ご自身が知りえた情報を大勢の方に広く発信していらっしゃるんですね。昨日(1月27日)も函館で地震がありました。揺れの直後にTwitterを更新していらっしゃいました。

■松居さん

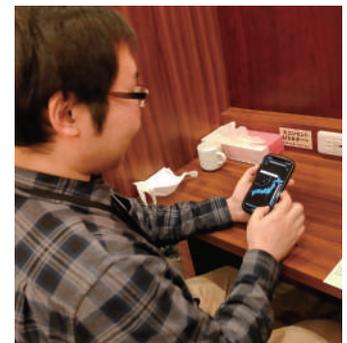
スマホには、災害情報を入手するためのアプリを複数入れています。『〇時〇分現在、函館市周辺で、地震が発生した模様です…』と入れた『下書きテキスト』も準備して、地震が起きてから更新までの時間短縮を図っています。

近ごろはどうしても新型コロナウイルスの情報発信が多いですが、災害としてはやはり2018年9月6日

午前3時7分59秒に発生した、北海道胆振東部地震が最も印象に残っています。

地震が発生したら、揺れる前に『緊急地震速報通知サービス』からの通知が届きますので、スマホのアプリをチェックします。実際に函館でも揺れを感じたら『下書きテキスト』の画面を開きます。『〇時〇分現在、函館市周辺で、地震が発生した模様です…』このテキストをもとにツイートします。

3Pへ続く▶



地震を知らせる通知がスマホに届いてからTwitter『函館災害情報』の更新まで、一連の流れを松居さんに見せて頂きました。



■まちセン

本当にあつという間ですね!驚きました。

わたしたちも状況に応じて正確かつスピーディーな情報発信ができるよう、事前の準備に力をいれています。

——まちセンの情報発信について

■まちセン

まちセンは『市民活動団体の活動拠点』として2007年にオープンしました。「地域の方も観光の方も、どなたでも」ご利用いただける場所です。これは強みでもあるのですが、活動が多岐にわたるため、Twitterでの情報発信もターゲットを絞り切れず、届けたい人に届いていないのでは、と感じています。

例をあげると、これだけの情報を、すべてひとつのアカウントで発信しています。

- 市民活動団体に向けての講座やセミナー情報、助成金情報
- どなたでも参加できる講座やイ

ベント情報(まちセン主催事業など)

- まちづくりセンターが会場の催し、イベント情報
- 施設利用に関する情報、テナント情報など
- インターン・修学旅行生・視察受け入れなどの報告記事
- 地域のお役立ち情報、旬の情報
- 観光情報、函館道南各地で行われるイベント情報
- 函館への移住を検討中の方に向けた情報(移住サポートセンターより)

■松居さん

私のまわりにもまちセンって何をやっている施設なのか、よく分からないという人もいます。Twitterでは2分間の動画が入れられるのをご存知ですか?プロフィール下の固定記事(トップ記事)に、例えば『まちセンはこんなことができます』という動画を入れてみてはどうでしょうか。

■まちセン

さっそく検討してみます。動画による導入部分があれば、日々の更新

情報も、よりはっきりと伝わりそうですね。『初めての方がご覧になる』ということを常に意識しながらブログ、SNSを更新していきます。

■松居さん

Twitterは、過去の地震や停電等の災害発生時でも、影響を受けることなく情報発信ができました。災害に強いツールだと思います。まちセンでもぜひTwitterを活用してみてください。そして災害時に備えて『市民が安心できる体制』を、ぜひともつくってみたいです。

■まちセン

SNSの特性や機能を最大限に活用してまいります。そして災害時にも落ち着いて情報発信できるよう、体制を整えていきたいと思っています。今日はありがとうございました。



■課題解決に向けての新たな視点

- SNSの特性を見極め、最大限に活用する → 便利な機能を積極的に試してみよう
- 『まちセンってどんな場所?』の発信 → シンプルに伝える工夫を(動画の活用)
- 災害時への備え → 情報発信の体制を整える



今回のゲスト

函館災害情報 代表
まつい たかゆき
松居 孝幸 さん



函館市出身。
仕事の傍ら、函館で発生した地震・豪雨などの気象災害情報や地域の安全情報を無償で発信する『函館災害情報』代表。
HP開設・メルマガ配信は2002年から。2013年よりTwitterでの情報発信を開始。2021年3月現在、Twitterのフォロワー数は60,000人を超える。



Mission4 情報発信

(Instagram)
Instagram 開設しました!



移住サポートセンター(函館市地域交流まちづくりセンター)は、Instagramアカウントを開設し写真や動画を使った情報発信をはじめました(2021年1月7日より運用開始)。

話題ははこだて暮らしを楽しむヒント、季節の移り変わりなどです。函館山の麓、西部地区の情報を中心に更新しています。函館への移住を検討中の方ももちろん、すでに函館に移り住んだ方も、そして函館在住の方も、どうぞお気軽にフォローしてください。

移住サポートセンターが配信しているメールマガジンとあわせてご覧いただくと、はこだて暮らしをよりイメージできると思います。メールマガジンの登録もお待ちしております。登録者数は年々増加しており、2021年3月現在、500名を突破しました。

Instagramによる情報発信は、移住サポートセンターが昨年実施しましたアンケートの結果や、広報誌クーポラ vol.54の移住特集(蒲生 寛之さんとの対談)を受けて、準備をすすめてきたものです。



Coming Soon! まちづくりセンターは YouTube チャンネルを開設します!

2021年度より、コンテンツの充実を図ってまいります。公開しましたらブログでお知らせします。



これからもさまざまなツールを活用して情報発信してまいります。



一緒に応援しませんか？

市民活動団体のご紹介

会員募集中！
一緒に活動してみたい方は
お気軽に各団体
お問い合わせください。

活動
団体

～虹をはいて歩こう！～ レインボーはこだてプロジェクト



わたしたち『レインボーはこだてプロジェクト(以下、RHP)』は、性的少数者(LGBT)への理解促進に関する活動を通じて、多様な人々が自分らしく暮らし、自己実現できるような地域づくりに取り組んでいます。RHPには、当事者、当事者の家族、学生、大学教員、さまざまな背景を持った支援者が関わっています。それぞれの立場や専門性を生かしながら、イベント『虹をはいて歩こう(会場:函館蔦屋書店)』やセミナー・講演会を開催したり、当事者に対する支援活動を展開したりしています。



工藤市長とのタウンミーティングに参加。
LGBT施策の重要性について訴えました。(2019年)

活動に参加してみたい方は、お気軽に電話やメールでご連絡ください。まずは見学してRHPの雰囲気を感じていただければと思います。また、代表の北見が経営している焼きピロシキとボルシチの店『まるたま小屋』に直接お越しいただいても結構です。

RHPは、笑顔で楽しく活動することを心がけています。2021年度も『虹をはいて歩こう』を実施する予定です。性的指向・性自認に関わらず、LGBTフレンドリーなまちづくりに一緒に取り組んでいただける仲間を求めています。

- レインボーはこだてプロジェクト 代表/北見 伸子 設立/2018年 会員数/約20名 年会費/なし
住所/函館市元町2-3 まるたま小屋内 電話/0138-76-3749
✉ rainbow.hakodate@gmail.com
🖥 <https://rainbowhakodate.wixsite.com/rainbow>

団体設立のきっかけや
活動内容などの詳細は
まちセンHPで



<http://hakomachi.com>



市民活動団体の活動報告 スマイルマーケット

2013年10月より函館道南の幼稚園、保育園、児童館、町会、放課後児童デイサービスなどで定期・不定期にボランティア活動をしてきました。紙芝居、指人形、エプロンシアター、ペープサート、パネルシアター手遊び、体操、手品などを披露し、子どもたちと楽しい時間を送ってきました。

日常・テレビ・ゲーム・その他の機械音の中にいる子どもたちが紙・布・生の声で、みんなと一緒に遊びの輪に加わる楽しさを知り、好奇心と興味で目を輝かせ、会場がひとつになった時間が私達にとってもやりがいのある事でした。

2021年3月をもって活動を終了しました。これまで多くの方々との協力とあたたかい励ましをいただき、本当にありがとうございました。



絵本よみきかせ



(スマイルマーケット 代表 高橋 千恵)

詳細はこちら▲





2020年4月～2021年3月までの1年間、まちづくりセンターの公式Facebookページで特に反響が大きかった記事トップ3をお知らせします。



2020.7.31 映画『糸』北海道ロケ地マップ配布中です!

※まちづくりセンターの在庫は残りわずかです。なくなり次第配布終了。

詳細はこちら▶



2020年緊急事態宣言の発令により臨時休館いたしました

まちづくりセンターは2020年4月20日(月)～5月25日(月)の36日間にわたって臨時休館いたしました。お知らせはHP、ブログに掲載のほか、Twitter、Facebookにて案内しましたところ、たくさんの方に記事をシェアしていただきました。情報発信にお力添えいただき、ありがとうございました。



2020.6.19 リングブル・古切手回収終了のお知らせ(6/30終了)

※これまでのご協力ありがとうございました。

詳細はこちら▶



2021.2.3 函館発信映画『草の響き』協賛募集のお知らせ

※引き続き募集中です。

詳細はこちら▶



まちづくりセンターの最新情報から地域の情報まで、はこだて暮らしに役立つ情報を発信中! お気軽にフォローしてくださいね

まちづくりセンター

facebook ▶



配布先・問い合わせ先

『はこまち通信クーポン』2021年4月 vol.56
次号は6月30日発行予定です(年4回)

- 発行/ 函館市地域交流まちづくりセンター
- 住所/〒040-0053 北海道函館市末広町4-19
- TEL/ 0138-22-9700
- FAX/ 0138-22-9800
- 開館/ 9:00～21:00
- 休館日/ 12月31日～1月3日

<http://hakomachi.com>



このほか器材点検のため月1回程度、臨時休館する場合があります。詳しくはセンター内やWebでお知らせしています。

建物裏手に駐車場あり。
2時間まで無料。



指定管理者/
NPOサポートはこだてグループ
(2007年4月～)

『はこまち通信クーポン』編集室だより

今回の特集「情報発信」は、みなさまの市民活動団体が特に力を入れている活動ではないでしょうか。情報支援やサポートの方法を一緒に考えながら、この状況を知恵や工夫で乗り越えていきましょう。

(編集長/谷口 真貴)

●主な配布先(敬称略)

函館市役所1F/ 亀田支所/ 湯川支所/ 銭亀沢支所/ 戸井支所/ 恵山支所/ 榎法華支所/ 南茅部支所/ 函館市中央図書館/ 渡島総合振興局/ 函館市企業局アクロス十字街/ 総合保健センター/ 函館市民会館/ 函館アリーナ/ 函館市女性センター/ 函館市青年センター/ 函館市公民館/ 函館コミュニティプラザGスクエア/ 函館市青少年研修センターふるる函館/ 中島れんぱいふれあいセンター/ 函館市総合福祉センターあいよる21/ 函館市勤労者総合福祉センターサン・リフレ函館/ 亀田交流プラザ/ どさんこ交流テラス(東京 有楽町)

取材に協力くださったみなさま、施設等

『はこまち通信クーポン』に関するご意見、ご感想をお寄せください。お名前、ご住所、お電話番号を明記の上、メール info@hakomachi.com まで



再開しました まちセン茶論

市民と移住者の集い『まちセン茶論 (サロン)』を再開しています。10:30~11:30 (午前の部) と13:30~14:30 (午後の部) どちらかをお選びください。参加費無料、事前申込制、定員各5名。

まずはお気軽にお問い合わせください。はこだて暮らしコンシェルジュ谷口がご相談に応じます。

【今後の予定】 4月13日 (火)
5月11日 (火)
6月8日 (火)



感染症対策に気をつけて開催しています▶



市民と移住者の交流の場

5月11日 (火) 6月8日 (火) 2021

4月13日 (火)

午前部 10:30 ~ 11:30

午後部 13:30 ~ 14:30

定員 各5名 申込み制

毎月のお楽しみ

まちセン茶論

場所 函館市地域交流まちづくりセンター
函館市末広町 4-19

函館のこと・日々の暮らしで感じていることなど
ざっくばらんに話しましょう、聞きましょうという集まりです

新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐため、
新しい生活様式を取り入れて開催します。
ご協力よろしくお願いします。

お問合せ 移住サポートセンター ☎0138-22-9700
(函館市地域交流まちづくりセンター内)

NPO法一部改正のお知らせ

特定非営利活動促進法 (NPO法) の一部が改正され、令和3年6月9日より施行されます。

詳しくは、内閣府NPOホームページをご覧ください。また、ご不明な点がありましたら、まちづくりセンターまでお問い合わせください。

内閣府NPOホームページ▶



シーニックdeナイト2021

2021.2/6 (土)

2008年より続いているキャンドルイベントに毎年参加しています。この日は風も穏やかでキャンドルイベントにピッタリ。みなさん幻想的な風景を楽しんでいらっしゃいました。休止している外観のライトアップもあわせて実施しました。



はこだて×市民活動×SDGs 好評です!

函館道南で活動するNPO・市民活動団体 (70団体) をPRするガイドブック『はこだて×市民活動×SDGs』を発行しましたところ、多くの反響をいただきました。

地域に『新たなつながり』や『支援の輪』を広げるため、このガイドブックをどうぞご活用ください。

(発行:函館市地域交流まちづくりセンター)



▲無料ダウンロードはこちらから



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

各種お問い合わせ 函館市地域交流まちづくりセンター ☎0138-22-9700





「小規模多機能自治」という言葉を聞いたことはありますか？

うんなん

島根県雲南市から広まったまちづくりの取組です。まちづくりセンターにも何度か講師として来ていただいたIIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]代表**川北 秀人さん**が中心となって作りあげてきました。実は私も数年前、雲南市に行く機会があり、その凄さにふれ、函館でも実現したいという思いを強くしてきました。

小規模多機能自治とは、簡単に言うと、“地域内のことを地域の人たちが自分たちで考え、課題解決策を決め、実行していく姿”のことです。町会以外にも、地域のサークルをはじめ様々な人が集まり、みんなで考えていきます。町会よりは広い区域を設定し、恒例の行事を行うためではなく地域の課題を解決するために話し合っていく場になっています。そこでは、1人1人が主役となり、できることを出し合い活躍しています。

例えば、ある地区では委託契約で水道検針を地区の人が行っています。毎月の検針訪問の際、保健師も同行し、高齢者の見守りや健康相談も一緒にしています。別の地区では、閉鎖された店舗を住民の力で再開。交流拠点だけでなく、買物も健康相談も、包丁研ぎなどの困りごとの解決もできる場にしました。今では地区の人々がつくった野菜や惣菜も販売。収入もそれなりにあり、生きがいづくりにもつながっています。他にも、地区オリジナルの介護予防体操をつくり普及させるなど、多くの取組が地域の人たちの力で行われています。

川北さんは、「少子高齢化が進み、課題が増えるのに自治体は何もできなくなる。延長線上で考えるのではなく、地域の取組も組織も進化が必要」と訴えます。
函館も、例外ではありません。

1F 福祉の店 どんぐり 2号店

- 営業時間／10:00～15:00
 - 定休日／土日祝日・施設休館日
 - 授産製品を扱っています。
函館みやげにオススメのクッキーをはじめ、布バッグや布ぞうりなどのハンドメイド雑貨も豊富です。
-  **【オススメ】土偶クッキー 800円** (2枚×6袋入 税込)



1F 喫茶コーナー cafe DripDrop

- 営業時間／10:00～17:00 (変更の場合あり)
 - 定休日／水曜日・施設休館日
 - 自家焙煎、ハンドドリップのコーヒーで一息つきませんか？
 - 営業時間など最新情報はお店のSNSをご覧ください▶
-  **【オススメ】まちせんブレンド 380円**
SDGsにちなんだ有機のブレンドコーヒーです。



[喫茶・ショップお問合せ先] 電話 0138-22-9700 函館市地域交流まちづくりセンター

